

意見公募（パブリックコメント）の実施結果について

案 件 名	登別市公共施設等総合管理計画（案）	
意見の募集期間	令和4年2月3日（木）から令和4年3月4日（金）	
担 当 グ ル ー プ	総務部行政経営グループ	
意見の提出件数	2件	
提出された意見の概要と市の考え方		
NO	意見の概要	市の考え方
1	<p>「〓将来を見据えたサステイナブルな公共サービスを目指して〓」と副題がついていますが、なんだかダサい感じがします。</p> <p>「登別市における公共施設の持続可能性を目指して」などの方がいいとは思いますが。</p> <p>全体的に「カタカナ語の多様がカッコいいと思っているのかと感じます。</p>	<p>計画等の策定においては、できるだけ平易な用語を用いるように努めております。</p> <p>サステイナブルについては、若干理解しにくい用語であることは認識しておりましたが、本市が進めるSDGsの主要な用語であるため、多くの市民のみなさんの目に触れるよう使用させていただきました。</p> <p>本計画の副題は、現行案のままとさせていただきます。</p>
	<p>「登別市葬祭場」について</p> <p>建物に問題がない事はわかります。一方で「クリンクルセンター」の事例の通り「炉」の問題があります。</p> <p>「火葬炉」の写真があってもいいと思いますが、火葬炉は定期的な保守が必要とされています。火葬炉の状況についてもっと詳しく記述すべきではないでしょうか？</p> <p>併せて旧富浦火葬場がいまだに解体がされておらず、不健全な状態が続いています。</p> <p>解体に向けた市民への説明が必要ではないでしょうか？</p> <p>他市で実際に旧火葬場を肝試しで訪れる人が散見される事例もあります。その様子をインターネットに投稿する輩までいます。早急な旧火葬場の解体が必要ではないでしょうか？必要な財源として「ふるさと納税などクラウドファンド的な集め方」で解体も考えてもいいのではないのでしょうか？</p>	<p>葬斎場は、本計画において、長寿命化施設に位置付け、今後も施設を維持管理することとしており、火葬炉をはじめとした火葬設備等についても、「中間改修事業計画」に基づき、計画的に改修等を行うこととしております。</p> <p>公共施設を廃止した際には、速やかに除却することを基本としつつも、個々の事案に関しては、厳しい財政事情から先延ばしせざるを得ない事例が多数存在し、結果として供用廃止後の公共施設等を抱える状況となってきたことから、廃止施設等除却推進プランを定め、計画的な除却に努めています。</p> <p>旧火葬場は、平成15年度に供用廃止した施設であり、周囲への安全性の確保及び環境的配慮を行いながら、財源を踏まえ、除却の時期等について検討し、廃止施設等除却推進プランでお示ししてまいります。</p>
	<p>給食センターについて</p> <p>建て替えという選択肢の他に既に「仕出し会社への委託」「ホテル旅館などの大規模宴会が可能な会社への委託」などを考えてもいいのではないのでしょうか？</p>	<p>学校給食センターは、旧耐震基準の建物であり、建物・設備ともに抜本的な対策が必要な状況であることから、当施設の今後のあり方について検討を行うこととしております。</p> <p>検討にあたっては、施設整備の考え方だけでなく、</p>

<p>登別市内には「仕出し屋」「旅館業」が何件もあり今後の産業構造変化に対して有益な公共事業だと考えます。</p> <p>室蘭市の場合ですが、学校給食は株式会社ニッコクトラスト(株式会社ニッコクトラスト北海道)に委託していますが建物を市の負担で建設することになり財政的にも問題があるのではないのでしょうか？</p> <p>保育所の給食も含めて「仕出し屋」「旅館ホテル」「弁当店」「飲食店」等への委託も方法だと考えます。</p>	<p>調理業務の業務委託の可能性についても検討を行うこととしております。</p> <p>他自治体においても、給食自体を民間事業者から購入する、いわゆる仕出し方式の給食提供がなされている事例があるのは承知しておりますが、給食提供にあたっては、衛生管理や栄養価などに細心の注意を払わなければならないことはもちろん、給食自体が食育活動の一環という側面を有しており、現時点においては、当市の学校給食に仕出し方式を導入する考えはありません。</p>
<p>水道について</p> <p>西富岸に隣接する道路で「室蘭市の水道管」が壊れ道路が不通になる事例がありました。登別市民にとってはとんだとぼっかりであり、室蘭市の水道は登別市民への利益が全くないのにも関わらず道路が使えないなどの問題が発生しました。</p> <p>このような事例について検証が必要であり登別市内でこのような上下水道で起こることはあってはならないことです。しっかりとした保守点検や投資が必要ではないのでしょうか。その上で室蘭市の水道がやらかした事例は反面教師にすべきではないのでしょうか？</p> <p>また、この室蘭市の水道の事例では夜間も工事は行わず早期の復旧がなく結果として登別市道に与えた影響は甚大でした。この点を踏まえて盛り込むべきではないのでしょうか？</p>	<p>水道施設の整備は、計画的かつ効率的な水道施設の改築・更新や維持管理・運営等を検討するとともに、「登別市水道施設整備計画」に基づき、計画的に具体的な整備を進めていくこととしております。</p> <p>今後も、水道事業を取り巻く情勢は、常に変化していく要素がありますが、これらを的確に捉え、水道事業の健全化と安全で安心な水道水を安定的に供給することに努めることとしております。</p>
<p>道路保守と除雪について</p> <p>今年は記録的大雪で、JRが運休になるなど問題が露呈しました。</p> <p>記録的大雪となった場合に自衛隊(防衛省)との連携や開発局・気象台(国土交通省)との連携など考えるべきではないか？</p> <p>高速道路で立ち往生となった場合、どうするのかも含めて検討が必要です。</p> <p>避難を受け入れるのか等です。</p> <p>記録的大雪となった場合に自衛隊に災害要請を出すことも場合によっては必要だと思います。札幌市の事例をみれば明らかです。除雪車の在り方も含めて記載すべきです。</p>	<p>舗装の補修や除雪など道路の維持管理に関しては、パトロール等で異常などを早期に発見し、修繕や除雪を適切行うことで、安全で安心な道路の通行を確保することとしております。</p> <p>なお、大雪災害の対応については、本計画には記載するものではありませんが、貴重なご意見を参考とさせていただきます。</p>

	<p>凍結した道路の在り方や「スキー場のコブのような状況」についても、消防車両等の緊急車両が通行出来なくなつてはまずい事です。登別市の消防においても訓練や対応策の策定をして札幌市を反面教師にすべきです。</p> <p>雪解け後には道路が破損している箇所が出てきます。場合によっては裁判沙汰になって負担をしないとけないといった事もあり道路管理者としての在り方も記載が必要です。</p>	
2	<p>市立小学校、中学校の統合後の体育館の活用について意見・提言を致します。</p> <p>市立幌別小学校と東小学校統合に始まる小学校・中学校の統合後の体育館を</p> <p>(1) 青少年会館の機能移転</p> <p>(2) 市民に一般開放して市民、特に高齢者が気軽に利用しやすい体育施設に検討して頂きたい。</p> <p>公共施設等総合管理計画の内、スポーツ施設に絞り意見を述べ、提言いたします。</p> <p>計画案第 6 章 6-1 施設類型ごとの基本方針</p> <p>(6)スポーツ施設には</p> <p>青少年会館は維持が出来なくなった場合には、施設の統廃合や他の施設への機能移転を検討します とあります。</p> <p>また、(4)図書館は隣接する青少年会館を廃止する際に、その跡地を利用して施設の増改築を検討する とあります。</p> <p>図書館は老朽化が進みまた蔵書数も増えていることから青少年会館の跡地を利用して図書館の新設・増改築について賛成です。しかし青少年会館が重要なスポーツ施設として多くの市民が利用されていることから、現在の青少年会館の機能を持つスポーツ施設の新設もしくは機能移転を検討して頂きたい。</p> <p>そこで機能移転案として統合後の学校体育館の活用を提案いたします。</p> <p>また、高齢者が気軽に軽スポーツを楽しめるスポーツ施設が不足しているのも実情です。</p> <p>資料によりますと登別の人口構成は以下のとおりです</p>	<p>人口減少のさらなる進展など市を取り巻く環境を勘案すると、将来的に現在保有するすべての公共施設等をそのまま維持・更新していくことは困難です。</p> <p>そのため老朽化した公共建築物の機能移転や廃止に努めるとともに、新たに公共建築物を取得する場合においても、原則として機能の複合化・集約化を図り、既存建築物の延床面積を超えない規模とすることで、施設総量の削減を推進し、将来的な財政負担の軽減を図ることとしています。</p> <p>地域のスポーツ振興を図るうえで欠かすことができないスポーツ施設についても、これらの基本的な考えに基づいて総量削減に努めることとなりますが、ご意見をいただいたとおり、市民のみなさんの健康づくりを支え、だれもが気軽にスポーツに親しめるまちであるべきと考えております。</p> <p>青少年会館については、老朽化が進んでおり、長期的な使用は難しいことから、本計画案において、「施設として維持ができなくなった場合には、施設の統廃合や他の施設への機能移転を検討」することとしましたが、本施設を含め、市内のスポーツ施設における利用状況を勘案し、学校開放の拡充や団体間の利用調整など、スポーツに親しむ団体がその後も継続して活動できるよう、しっかりと支援していきたいと考えております。</p> <p>統廃合後の廃止となる学校施設の利活用についてでございますが、役割を果たした公共施設については、公共施設として維持することによる経費を考えると、基本的には速やかに除却することや民間への売却が適切であると認識しております。</p> <p>しかしながら、老朽化した公共施設を既存の施設</p>

	年少人口 0～14歳	生産人口 15～64歳	老年人口 65歳～	合計
令和2年	4,703人 10.0%	24,552人 52.1%	17,855人 37.9%	47,110人
令和22年	2,789人 8.1%	15,859人 46.0%	15,837人 45.9%	34,485人

老年人口割合が年々増加し、令和22年では生産人口と老年人口は、ほぼ同数になります。

また、老年人口に区分される高齢者のうち就労しながら、スポーツを楽しむ健康維持したい人も相当人数おります。

参考までに、当スポーツクラブの年齢構成と就労率は、令和4年1月1日現在の実態は以下のとおりです。

	生産人口区分者 15～64歳	老年人口区分者 65歳～	合計
クラブ会員構成	7人 36.8%	12人 63.2%	19人
うち就労者	7人 100%	6人 50%	13人 68.4%

即ち当クラブは、就労している高齢者を含め40歳～64歳のメンバーを加え、ミニバレーを主に活動している団体です。

登別市スポーツ施設のうちミニバレー、スポンジテニス、卓球等の軽スポーツを市民が楽しめるは市立体育館、青少年会館(富岸青少年会館は閉鎖)、学校開放事業での小学校・中学校体育施設(夜間のみで土日祝日学校行事のある時は利用できない)があるものの、平日の昼間以外ほどの施設も利用している団体が多く、就労している高齢者が土日や平日の夜間気軽に軽スポーツを楽しめる施設がないのが実情です。

高齢者向け施設には老人福祉センターがあるものの、軽スポーツを楽しみたい高齢者に対しスポーツ施設になっていないことを鑑み、高齢者の健康寿命を延ばすためにも、市立小学校、中学校の統合後の体育館を市民に一般開放して市民、特に高齢者が気軽に利用しやすい体育施設に検討して頂きたい。

に機能移転し、今ある施設を末永く大切に使い続けることも肝要でありますので、人口減少、少子高齢化が進展する中で、どのぐらいの規模で体育施設が必要なのかなど、しっかりと検証した上で、青少年会館を学校の体育館に移転することも手法の一つであると認識しています。